

排水溝はつまっていませんか？ 排水を促し、今後の作業に備えましょう

7月初旬から降雨が続いており、大豆の播種遅れや滞水している場が多く見られます。播種や中耕・培土作業が遅れていても、急いで無理に作業をせず、まずは排水対策を行いましょう。

<排水対策>

土壤水分が高い状態で無理に播種をすると、発芽不良につながります。排水溝が麦わらや草、土などで詰まっていないか確認しましょう。



<播種時の注意点>

- 播種はできる限り7月末までに行いましょう。
- 播種深は3cm程度とし、深播きは避けましょう。
- 播種量は1～2割増やしましょう。

播種量が8kg/10a以上確保できる場合は、狭畦無中耕・無培土栽培（密播栽培）への切り替えを検討しましょう。

- 基肥を窒素成分で2～3kg/10a施用し初期生育を促しましょう。

<中耕・培土作業が遅れている場合は…>

排水を促し、できるだけ早く作業に入れる準備をしましょう。

作業の遅れ等により雑草の発生が懸念される場合は、除草剤の使用を検討しましょう。除草剤を使用する際は、ラベルの内容をしっかりと確認し内容に従って使用してください。